



瀬戸石ダムは危険・不要！国や電源開発は責任を認め、被害者に謝罪・補償せよ！

昨年7月に発生した球磨川流域の大水害。かつてない甚大な被害をもたらした原因は瀬戸石ダムの存在です。国交省が昨年発表した水害痕跡の調査結果によると瀬戸石ダム地点で5メートルも水位が上昇し、その水位上昇はダムの上流7キロメートル地点まで及んでいました。

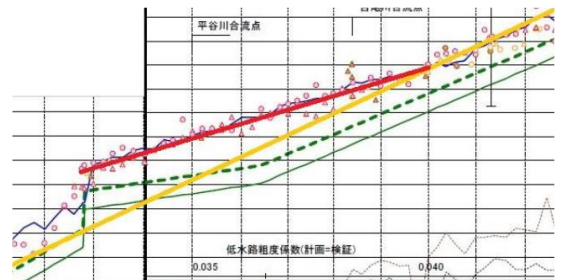
この水位上昇が無ければ、ダム上流での浸水被害や犠牲者・行方不明者の被害も出なかったと思われます。また下流域ではダム放流によってJR瀬戸石駅舎や駅前の民家が跡形もなく流されました。

勢いのあるダム放流の流れが、狭い川幅によって増幅され坂本地区の被害を拡大したものと思われます。

芦北町では1名亡くなられ、いまだ行方不明の方も芦北、坂本それぞれ1名いらっしゃいます。正しく「殺人ダム」としか呼びようのないものです。

しかし、瀬戸石ダムを管理運営する電源開発(株)はダムが水位上昇を引き起こしたことを認めようとはしません。また、国交省も「ダムだけが水位上昇の原因ではない」としています。

瀬戸石ダムが水害の原因だったかどうかは、ダムが無かった場合の水位のシミュレーションをすれば分かることです。川辺川ダムのシミュレーションが可能なら、瀬戸石ダムも出来る筈です。瀬戸石ダムがあればだけの被害を引き起こしたことは間違いありません。国と電源開発は責任を認め、被害者に謝罪及び補償をすべきです！



昨年の豪雨災害時の水位の推定図(国交省の図面を基に作成)。瀬戸石ダム地点で急激に水位が上昇し、球磨村神瀬地区まで及んでいる(赤い線)。



流域に巻き起こる「瀬戸石ダムはいらん！」の声。下流にとっても瀬戸石ダムは不要。邪魔物は早急に撤去せよ！

8月下旬から9月上旬まで、球磨村、芦北町、坂本町、人吉市で行政側による治水対策の説明会が開催されました。そこで出たのは住民の瀬戸石ダム撤去を求める声です。「瀬戸石ダムを撤去する考えはないのか」(8/26球磨村住民)、「遊水地に(自分の地域を)指定するより、瀬戸石ダムを撤去すればよかたい」(人吉市中神町住民)に代表されるように被災した住民にとってダムは危険な存在です。また瀬戸石ダムのメリットは発電だけでダム下流にとってもメリットはなく、しかも現在発電停止中で発電再開時期も未定です。邪魔物でしかないダムは早急に撤去すべきです。



坂本町での説明会(9月1日)を報じるテレビニュース。ここでも瀬戸石ダム追及の声が上がった。